

茅ヶ崎市内の戦争関連碑

高橋 彰子*

茅ヶ崎市博物館戦後 80 年企画展「戦中・戦後の暮らし」（会期：令和 7 年 1 月 7 日～6 月 29 日）開催にあたり、図書室での資料提供の一助として茅ヶ崎市内の戦争関連碑の写真を展示した。今回はその撮影にあたり確認できた内容を以下の表にまとめ写真と共に掲載する。

表 1 茅ヶ崎市内の戦争関連碑一覧

No.	碑銘	所在地	建設年月日	建設者	揮毫者	出典	備考
1	徴兵加藤勝五郎招魂碑	萩園 1719 三島大神	明治 11 年 (1878) 10 月	村民	小笠原 東陽	○	「明治十年西南之変」（西南戦争）後、凱旋途中で病死。碑文(漢文体)あり。鎌倉郡片瀬村秋元平治鑄。鶴嶺八幡宮の「昭忠碑」(No.13)にも名前が見られる。
2	軍人戦死碑	菱沼 1-11-64 八王子神社	明治 13 年 (1880) 3 月	—	—	○	明治 10 年 3 月 20 日、西南戦争において肥後国(熊本県)で戦死した島崎瀧蔵の碑。同社の「護国之碑」(No.20)と長福寺の「遺勲丘忠魂碑」(No.10)にも名前が見られる。
3	明治十年西征陣亡軍人之碑	堤 3580 建彦神社	明治 13 年 (1880) 8 月	堤村中	下邨 秀太郎	○	建設年月日、建設者について、基壇に「堤村中／明治拾三年庚辰第八月」とあったようだが(※1)、現在は確認できない。「征西」(西南戦争)において熊本県で戦死した小宮松五郎の碑。皆楽荘(堤 1928-1)の「各戦役殉国英霊碑」(No.21)にも名前が見られる。市史に「招魂社建設賛同者の名簿」あり(※2)。
4	征清従軍死者之碑	堤 1928-1 皆楽荘	明治 29 年 (1896) 2 月 15 日	小出村	—	○	「明治二十七八年役」(日清戦争)で戦病没した大塚弥七と久保藤太郎の碑。碑文(漢文体)あり。
5	故陸軍歩兵一等卒青木伊之助小林綱五郎碑	堤 1928-1 皆楽荘	明治 29 年 (1896) 2 月 15 日	小出村	—	○	「明治二十七八年役」(日清戦争)で戦病没した 2 名の碑。碑文(漢文体)あり。
6	陸軍歩兵栗原初五郎碑	室田 1-15-44 永昌寺	明治 29 年 (1896) 2 月	松林村	—	—	明治 28 年 3 月 24 日、「明治二十七八年戦役」(日清戦争)において「台湾列島久良島」で病没(※3)。同年 5 月 12 日同寺で葬儀が行われた(※4)。長福寺の「遺勲丘忠魂碑」(No.10)にも名前が見られる。碑文(漢文体)あり。
7	陸軍歩兵新倉八五郎碑	小和田 1-17-5 廣徳寺	明治 29 年 (1896) 2 月	松林村	—	—	明治 28 年 4 月 24 日、「明治二十七八年戦役」(日清戦争)において「台湾島馬公城病院」(澎湖諸島)で病没。同年 6 月 18 日同寺で葬儀が行われた(※4)。長福寺の「遺勲丘忠魂碑」(No.10)にも名前が見られる。碑文(漢文体)あり。

No.	碑銘	所在地	建設年月日	建設者	揮毫者	出典	備考
8	護国忠魂碑	十間坂 1-3-39 円蔵寺	明治38年 (1905) 10月16日	茅ヶ崎 村兵事 会	希典 (乃木 希典)	○	「明治二十七八年戦役」(日清戦争)2名、「明治三十一年台湾匪徒征役」2名、「明治三十七八年戦役」(日露戦争)8名、日支事変(日中戦争)1名の碑。御影石製で、当時は茅ヶ崎小学校裏門に祀られていたが、戦後同寺に移設(案内板による)。隣に乃木將軍の石像あり。
9	川島君之碑	下寺尾 1551 白峰寺	明治39年 (1906) 1月8日	川島 駒吉	正八位 神保修	—	明治甲辰(37年)10月13日、「沙河之役」(沙河会戦)で戦死した川島森蔵の慰霊碑。碑文(漢文体、小森保太郎撰文)あり。海老名村川原口石工望月久吉。皆楽荘(堤1928-1)の「彰忠」(No.14)にも名前が見られる。
10	遺勲丘忠魂碑	松林3- 11-52 長福寺	明治39年 (1906) 4月	松林村 兵事会	水越良 介※5	○	西南戦争1名、日清戦争2名、日露戦争7名の碑。大正15年9月24日に同寺境内より移転改築。
11	陸軍騎兵 上等兵勲 八等功七 級野崎豊 次郎碑	下寺尾 1551 白峰寺	明治39年 (1906) 4月	野崎 初五郎	—	—	明治38年4月14日、「明治三十七年日露ノ役」(日露戦争)において敵状視察中に戦死。皆楽荘(堤1928-1)の「彰忠」(No.14)にも名前が見られる。碑文(漢文体)あり。
12	内田徳十郎君之碑	下町屋 2-14- 15 梅雲寺	明治39年 (1906) 12月5日	遺族	山宮藤 吉	○	明治37年12月5日、「日露之役」(日露戦争)において旅順で戦死。碑文(漢文体、鶴嶺村長出口直吉撰)あり。内藤岩吉刻。鶴嶺八幡宮の「昭忠碑」(No.13)にも名前が見られる。
13	昭忠碑	浜之郷 462 鶴嶺八 幡宮	明治39年 (1906) 12月	鶴嶺村	元帥侯 爵山縣 有朋	○	「明治三十七八年之役」(日露戦争)14名、後に「西南之役」(西南戦争)1名、日清戦争2名、日露戦争2名を加える。碑文(漢文体、鶴嶺村長出口直吉誌 山宮藤吉書(※4に揮毫の記載あり)あり。冨田壽石刻。
14	彰忠	堤 1928-1 皆楽荘	明治40年 (1907) 1月15日	小出村 兵事会	希典 (乃木 希典)	○	「明治三十七八年戦役」(日露戦争)記念の碑。戦死者8名・従軍者87名の氏名がある。吉田政司書。片瀬石工 秋元幸太郎。
15	三橋太郎 吉君之碑	南湖2- 9-34 西運寺	明治40年 (1907) 8月	村民	山宮藤 吉	—	明治37年11月28日、「明治三十七八年之役」(日露戦争)において旅順寺兎溝西方高地で戦死。碑文(漢文体、山宮藤吉撰(※4に碑文校正の記載あり))あり。
16	砲兵大尉 正六位勲 五等功五 級秋田完 吉碑	十間坂 1-3-39 円蔵寺	大正5年 (1916) 5月5日	帝国在 郷軍人 会 茅 ヶ崎町 分会	—	○	
17	戦没各英 霊追悼地 蔵尊	矢畑 150 長善寺	昭和17年 (1942) 10月19日	発起人 山上仙 太郎・ 石黒フ ミ(菘 園)・ 村上シ モ	—	—	基壇に銘板のようなものがあるが、文字は確認できない。供えられていた卒塔婆に「大東亜戦争戦没者各霊位」とある。台石に四国八十八ヶ所霊場の寺号が刻まれている。十四世明仁代。

No.	碑銘	所在地	建設年月日	建設者	揮毫者	出典	備考
18	第二次世界戦 戦没者之碑	柳島 1-3-28 善福寺	昭和 25 年 (1950) 3 月彼岸	发起人 柳島有志	前神奈川県会議長 添田良信	○	第二次世界大戦での戦没者 56 名の慰霊碑。善福寺住職十八世 少僧正井上寿山代。上古澤 石一刻。
19	靖国之碑	小和田 2-3-66 熊野神社	昭和 25 年 (1950) 8 月 15 日	戦没者 記念碑 建立 发起人一同	靖国神社宮司 筑波藤麿	○	明治 28 年から昭和 21 年にかけての戦没者 130 名の碑。菱沼 石工 鍛代忠義。
20	護国之碑	菱沼 1-11-64 八王子神社	昭和 26 年 (1951) 5 月	菱沼 发起人 有志者一同	内閣総理大臣 吉田茂	○	西南戦争 1 名、「日露役」(日露戦役) 1 名、日中戦争 2 名、太平洋戦争 36 名の碑。发起人 7 名。石工 鍛代忠義。
21	各戦役殉国英霊碑	堤 1928-1 皆楽荘	昭和 28 年 (1953) 9 月	小出村	—	○	西南戦争 2 名、日清戦争 1 名、北清事変 1 名、日独戦争 1 名、朝鮮警備 1 名の碑。
22	殉国英霊碑	堤 1928-1 皆楽荘	昭和 28 年 (1953) 9 月	小出村	靖国神社宮司 筑波藤麿	○	満州事変 1 名、「支那事変」(日中戦争) 14 名、「大東亜戦争」(太平洋戦争) 128 名の碑。碑文あり。前場石材店刻。
23	洗心	十間坂 3-17-18 第六天神社	昭和 28 年 (1953) 12 月	氏子中	石黒翠波	○	野良人の歌と「大東亜戦争」(太平洋戦争) 時の金属供出で鐘が無くなった鐘楼を現在の場所に移し手水屋として利用していることを伝える碑。
24	故陸軍伍長森一朗之碑	高田 1-7-38 本在寺	昭和 29 年 (1954) 3 月	森友吉	—	—	太平洋戦争において昭和 19 年 5 月に編成された部隊でフィリピンのミンダナオ島カガヤン港上陸、デルモンテ飛行場に配置され、昭和 20 年 8 月 23 日、「パレンジヤン」(バレンシア(推定、※5)) で戦死。碑文あり。
25	平和観音	下寺尾 1551 白峰寺	昭和 29 年 (1954) 4 月 3 日	霊岳 修道尼	—	—	圓頓院妙春信女の菩提を弔うための碑。工事人茅ヶ崎市植岩。碑文あり。
26	慰霊	小和田 2-12-73 上正寺	昭和 32 年 (1957) 4 月	二十三 世 积 孝之	—	○	碑の左右に、66 名の氏名が戦没順に刻まれている。刻 鍛代義男。熊野神社の「靖国之碑」(No.19) や八王子神社の「護国之碑」(No.20) にも名前がある方が多く、日中戦争から太平洋戦争の戦没者とみられる。
27	忠霊塔	中島 1052 浄林寺	昭和 32 年 (1957) 9 月 23 日	中島 部落	靖国神社宮司 筑波藤麿	○	日清戦争 1 名、日露戦争 3 名、「支那事変」(日中戦争) 1 名、「大東亜戦争」(太平洋戦争) 24 名の碑。碑文(岡田虚堂書)あり。有限会社 富田石材工業刻。
28	陸軍伍長安齋直吉海軍二等兵曹安齋政雄之碑	赤羽根 3222 西光寺	昭和 34 年 (1959) 2 月 8 日	父母	—	—	太平洋戦争において戦死した兄弟の碑。兄直吉は昭和 19 年 11 月 8 日マノクワリ付近にて、弟政雄は昭和 19 年 10 月 25 日レイテ湾付近で戦死。碑文あり。

No.	碑銘	所在地	建設年月日	建設者	揮毫者	出典	備考
29	戦没者慰霊碑	南湖 4-4-29 八雲神社	昭和 37 年 (1962) 3 月 15 日	中町区	八十三翁重郎 (木村重郎)※6	○	日清戦争 1 名、日露戦争 1 名、「大東亜戦争」(太平洋戦争) 57 名の慰霊碑。碑文(松涛 鈴木富士松書)あり。四ツ角 富田石材店刻。
30	慰霊碑	矢畑 142 本社宮	昭和 41 年 (1966) 9 月 5 日	矢畑自治会	鶴嶺小学校長 二宮忠義	○	「大東亜戦争」(太平洋戦争)での戦没者 15 名の慰霊碑。碑文あり。基壇銘板に発起人名(20 名)と石材店名(菱沼鍛代石材店)あり。
31	平和慰霊塔	中海岸 3-3-11 茅ヶ崎公園	昭和 42 年 (1967) 3 月	茅ヶ崎市	茅ヶ崎市助役 深川六郎	○	老朽化のため、現在は「平和の礎」(No.41)に建て替えられている。当時の写真は「ちがだべ(デジタルアーカイブ)」で閲覧できる。現在は平和慰霊塔の銘板「平和慰霊塔」「平和慰霊塔の記」と「平和慰霊塔の記憶」の案内板がある。
32	慰霊之碑	萩園 1719 三島大神	昭和 42 年 (1967) 4 月	萩園自治会	靖国神社宮司 筑波藤麿	○	「西南役」(西南戦争) 1 名、「日露戦役」(日露戦争) 5 名、「支那事変」(日中戦争) 2 名、「大東亜戦役」(太平洋戦争) 33 名の碑。碑文あり。菱沼鍛代石材店。
33	慰霊之碑	西久保 466 日吉神社	昭和 45 年 (1970) 8 月	西久保自治会	防衛庁長官中 曾根康弘	○	日露戦争 3 名、「支那事変」(日中戦争) 1 名、「大東亜戦争」(太平洋戦争) 15 名の碑。碑文あり。
34	慰霊	円蔵 2282 神明大神宮	昭和 48 年 (1973) 8 月 15 日	円蔵自治会	日本遺族会会長 賀屋興宣	○	日清戦争 1 名、日露戦争 1 名、「日華事変」(日中戦争) 3 名、太平洋戦争 27 名の碑。碑文あり。
35	慰霊	今宿 586 松尾大神	昭和 49 年 (1974) 3 月	今宿自治会	元市長 出口肇	○	「日中事変」(日中戦争) 2 名、太平洋戦争 21 名の碑。碑文(渡辺三郎書)あり。施工者 片瀬三代目 秋元。
36	万国檀方 中全国 慰霊碑	芹沢 2472 蓮妙寺	昭和 50 年 (1975) 11 月吉日	弁財山 蓮妙寺	当山第三十八 世随祥代(神 藤随祥)※5	○	昭和 13 年から昭和 20 年までの同寺檀家の戦没者 9 名の慰霊碑。
37	慰霊之碑	南湖 3-4-40 金刀比羅神社	昭和 52 年 (1977) 3 月吉日	上町自治会	靖国神社権宮 司池田良八	○	日露戦争 1 名、「大東亜戦争」(太平洋戦争) 55 名の碑。碑文(鈴木正三書)あり。
38	慰霊碑	十間坂 3-17-18 第六天神社	昭和 52 年 (1977) 6 月	第六天神社 慰霊碑 建立委員会	靖国神社権宮 司池田良八	○	「日露支那事変大東亜戦」(日露戦争、日中戦争、太平洋戦争)戦没者 78 名の碑。基壇銘板に「第六天神社 慰霊碑建立委員会」委員名(19 名)、施工社名(茅ヶ崎石材工業株式会社)あり。脇碑(慰霊碑建立趣旨)あり。
39	松苗植樹 記念之碑	南湖 4-4-29 八雲神社	昭和 54 年 (1979) 3 月吉日	中町同志会員	松涛 (鈴木富士松)	○	「大東亜戦争」(太平洋戦争)中の昭和 19 年、茅ヶ崎上陸に備えるための陣地設営の用材として八雲神社の松が伐採されたが、戦後多くの町民の協力により植樹されたことを伝える碑。

No.	碑銘	所在地	建設年月日	建設者	揮毫者	出典	備考
40	慰霊碑	浜之郷 462 鶴嶺八幡宮	昭和 60 年 (1985) 6 月吉日	浜之郷 自治会	権大教師天籟 芳山 (赤間 芳山)※ 1	○	「大東亜戦」(太平洋戦争)での戦没者 18 名の慰霊碑。碑文あり。
41	平和の礎	中海岸 3-3-11 茅ヶ崎公園	平成 20 年 (2008) 2 月	茅ヶ崎 市	—	—	老朽化した平和慰霊塔 (No.31) を建て替えた。台座に「戦没者慰霊之碑」とある。
42	陸軍歩兵 一等卒 大森菊次郎招魂碑	中島 1134 八坂神社	—	鶴嶺村 有志	—	○	明治 28 年 3 月 23 日、日清戦争において澎湖島で戦死。鶴嶺八幡宮の「昭忠碑」(No.13) と浄林寺の「忠霊塔」(No.27) (没年月日は明治 28 年 3 月 22 日)にも名前が見られる。※4 に葬儀に関する記録あり。
43	故陸軍歩兵 伍長勲 八等功七級 小澤弥五郎之碑	赤羽根 3042 宝積寺	—	—	—	—	明治 37 年 11 月 26 日、「征露之役」(日露戦争)において旅順松樹山砲台で戦死。長福寺の「遺勲丘忠魂碑」(No.10)にも名前が見られる。碑文(漢文体)あり。
44	陸軍上等 兵今井敏司之碑	今宿 841 信隆寺	—	今井輝 司	—	—	昭和 19 年 7 月 20 日、太平洋戦争においてバギオ(フィリピン)で戦死。碑文あり。

※1 塩原富雄 1992『茅ヶ崎の記念碑』資料館叢書 10 (茅ヶ崎市文化資料館)による。

※2 茅ヶ崎市 1978『茅ヶ崎市史 2 資料編 下 近現代』pp745-747

※3 靖国神社社務所 1935『靖国神社忠魂史』第 1 巻 に澎湖島へ航行中船内で死没とある。

※4 茅ヶ崎市 2012『山宮藤吉日記 上』「茅ヶ崎市史史料集 第 6 集 (1)」に戦没軍人の葬儀や碑の揮毫などに関する記録がある。

※5 西本正巳 1975『追想のフィリピン 比島戦の歴史』(フィリピンインフォメーションセンターほか)に「バレンシア」という地名が登場し、デルモンテとバレンシアに配置された部隊があったという記述もある。

また、厚生省援護局 1961「陸軍航空部隊略歴(その 5)付。航空部隊の隷指揮下にあったその他の部隊/分割 1」JACAR (アジア歴史資料センター) Ref.C12122422800 中の「第 24 対空無戦隊」の編成年、フィリピン上陸地、展開地が一致(表記は「バレンシア」)

※6 小俣晴俊 1992「戦争碑の諸相」(茅ヶ崎市『茅ヶ崎市史研究』16)による。

なお、表の作成にあたっては碑文の記載通り(ただし漢字はできるだけ常用漢字に変更)、記載のない事項は()を付した場合があります。戦争名称については戦死年により、西南戦争、日清戦争、日露戦争、日中戦争、太平洋戦争の名称で表記した。

「出典」に「○」があるものは、下記文献に既出の碑

塩原富雄 1992『茅ヶ崎の記念碑』資料館叢書 10 (茅ヶ崎市文化資料館)

塩原富雄 1994「茅ヶ崎の記念碑 補遺(その一)」(茅ヶ崎市文化資料館『文化資料館調査研究報告』2)

塩原富雄 1999「茅ヶ崎の記念碑 補遺(その二)」(茅ヶ崎市文化資料館『文化資料館調査研究報告』7)

小俣晴俊 1992「戦争碑の諸相」(茅ヶ崎市『茅ヶ崎市史研究』16)

樋田豊弘 1980「社寺・小祠の民間信仰」(茅ヶ崎市『茅ヶ崎市史 3 考古・民俗編』第 2 章第 3 節)

茅ヶ崎市 1978『茅ヶ崎市史 2 資料編 下 近現代』

靖国神社 1996『神奈川県忠魂碑等建立調査集』

* 茅ヶ崎市立図書館



No.1 徴兵加藤勝五郎招魂碑



No.2 軍人戦死碑



No.3 明治十年西征陣亡軍人之碑



No.4 征清従軍死者之碑



No. 5 故陸軍歩兵一等卒青木伊之助
小林綱五郎碑



No. 6 陸軍歩兵栗原初五郎碑



No. 7 陸軍歩兵新倉八五郎碑



No. 8 護国忠魂碑



No. 9 川島君之碑



No. 10 遺勲丘 忠魂碑



No. 11 陸軍騎兵上等兵勲八等功七級
野崎豊次郎碑



No. 12 内田徳十郎君之碑



No. 13 昭忠碑



No. 14 彰忠



No. 15 三橋太郎吉君之碑



No. 16 砲兵大尉正六位勲五等功五級
秋田完吉碑



No. 17 戦没各英霊追悼地藏尊



No. 18 第二次世界戦戦没者之碑



No. 19 靖国之碑



No. 20 護国之碑



No. 21 各戦役殉国英霊碑



No. 22 殉国英霊碑



No. 23 洗心



No. 24 故陸軍伍長森一郎之碑



No. 25 平和観音



No. 26 慰霊



No. 27 忠霊塔



No. 28 陸軍伍長安齋直吉
海軍二等兵曹安齋政雄之碑



No. 29 戦没者慰霊碑



No. 30 慰霊碑



No. 31 旧平和慰霊塔



No. 32 慰霊之碑



No. 33 慰靈之碑



No. 34 慰靈



No. 35 慰靈



No. 36 万国檀方中全国慰靈碑



No. 37 慰靈之碑



No. 38 慰靈碑



No. 39 松苗植樹記念之碑



No. 40 慰靈碑



No. 41 平和の礎



No. 42 陸軍歩兵一等卒
大森菊次郎招魂碑



No. 43 故陸軍歩兵伍長勲八等功七級
小澤弥五郎之碑



No. 44 陸軍上等兵今井敏司之碑